

上羽博人(松山大学経営学部教授)

仮想的空間における 産業集積の形成と物流の役割

松山大学論集 Vol.27 No.2
pp.1~23 2015.6.

本論文の目的は、生産と流通分野に特化し、仮想的空間型における産業集積と物理的空間における産業集積、分業工程、サプライチェーン、立地、商取引流などがどのように連鎖をしているのかについて、物流の立場から考察することにある。本論文は「1.はじめに」、「2.産業集積とは」、「3.産業集積の変化」、「4.仮想的空間における産業集積（仮想的空間型産業集積）」、「5.仮想的空間型産業集積と物流企業の役割」、「6.まとめ」の6節から構成されている。

「2.産業集積とは」では、ウェーバー、マーシャル、クルーグマン、ポーターの議論を紹介し、クルーグマンとポーターの時代の以前と以後で産業集積の質的構造が異なることを指摘している。彼ら以後は、集積内部で形成されていたサプライチェーンが複数の集積間でも行われるようになり、各企業や分業工程は立地的特殊優位性を求め最適配置を進め、特定の物理的集積内で全ての集積の利益を得るよりも集積間のネットワークを利用した方が効率的となった。著者はこれを産業集積の質的变化と捉え、集積のネットワークを利用することによって規模の経済を拡大できると述べている。

「3.産業集積の変化」では、まず産業集積の形態（「フルセット型」、「サテライト型」、「ノックダウン型」、「流通加工型」、「仮想的空間型」）について説明している。産業集積の形態は生産シ

ステムの違いからも分けることができ、モジュール型は仮想的空間型や集積間のネットワーク化になじみやすく、擦り合わせ型は物理的空間型が中心となると主張している。次に、交通（物流）システムが産業集積に与えた大きな影響として、(1)分業工程の最適配置（分散）を行うネットワーク型の集積が形成されたこと、(2)「ハブ・アンド・スポークシステム」が構築され、ハブに集積が形成されたことの2点を挙げている。

「4.仮想的空間における産業集積（仮想的空間型産業集積）」では、クラウドやビッグデータの発達による情報の量的拡大、質的向上、多様化などにより、最適配置（分散）した物理的空間上の複数の拠点を太く効率的に結びつけることが可能となり、仮想工場や仮想市場、仮想倉庫を始めとする経営資源の交流サイトとして仮想的空間上での産業集積が形成されると論じている。また、仮想的空間における産業集積では、特定の物理的な産業集積内部から積極的に経営資源の調達を行う必要がないため、サプライチェーンや経営資源の流れを大きく変化させ、既存の物理的な集積構造やサプライチェーンの質的变化をもたらすことになるという。

「5.仮想的空間型産業集積と物流企業の役割」では、実運送事業と利用運送事業という2つの物流企業の役割を考察している。実運送事業とは、実際に船舶や航空機、貨車、トラックを保有し物品を輸送する事業であるのに対し、利用運送事業とは、主たる輸送手段を持たず実運送事業を利用して物流全体のサービスを行う事業を意味する。利用運送事業は業務を円滑に行うため、グローバルに仮想面と物理面の両者で充実したネットワークをもっている。

「6.まとめ」では、仮想的空間の可能性を指摘

しつとも、仮想的空間型産業集積の変化はさまざまな条件のある物理的空間型産業集積のシステムに規定されてしまう可能性が非常に高いと締めくくっている。本論文の大きな特徴は、物流の視点から「仮想空間型産業集積」という概念を提起したことにある。今後、「仮想的空間型産業集積」の構造や機能についてより踏み込んだ分析を行うことによって、産業集積論に重要な示唆をもたらすと考ええる。

（岐阜大学地域科学部助教 宇山 翠）